

会議録

会 議 名	第11回松江市伝統文化芸術振興審議会
日 時	令和8年3月23日(月)14:00~16:00
会 場	松江市役所 4階 防災センター ※一部オンライン
出 席 者	委員
	出席委員 12名 【出席委員】 垣内恵美子会長、石橋淳一委員、大隅宏明委員、大田美穂委員、小野亮委員、 園山土筆委員、高屋茂男委員、田中藤一郎委員、田中昌子委員、原田順子委員、 松原慶子委員、森山俊男委員 【欠席委員】 小泉凡副会長、小林准士委員、田中麻里委員
	松江市(事務局)
	上定昭仁(松江市長) 桑原賢司(文化スポーツ部長)、今岡広樹(文化振興課長)、加藤阿紀子(文化政策係長)、 松本瑠美子(文化政策係主任)
次 第	1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 会長あいさつ 4. 議事 (1) 松江市伝統文化芸術振興計画 第2期実施計画について ①令和7年度事業の進捗状況 ②令和8年度事業計画 ③令和8年度版松江市伝統文化芸術振興計画 第2期実施計画 5. 意見交換 6. その他 7. 閉会

1. 開会	
事務局 (桑原部長)	定刻になりましたので、只今より「第 11回松江市伝統文化芸術振興審議会」を開催させていただきます。 議事に入るまで進行を務めさせていただきます、「文化スポーツ部」部長の桑原でございます。よろしくお願い致します。 本年度、第2回目となります本日の審議会は、一部オンラインでの開催とさせていただきます。 オンラインで参加されております小野委員、こちらの声が聞こえていますでしょう

	か。 また、本日の審議会はペーパーレスとさせていただいております。タブレットに事前送付した資料を保存していますので、議事の参考に御覧ください。 また、本日配布する資料として、「第10回松江市伝統文化芸術振興審議会委員の意見と松江市の回答・見解」も同じくタブレットに保存しておりますので、ご確認いただきますようお願いいたします。こちらの資料につきましては、本会議終了後にデータ送付させていただきます。 これら資料について、タブレットに変えて、紙の資料が良い方は、お知らせください。また、タブレットの不具合や操作方法が分からない等、会議進行にあたって不都合な点がございましたら、随時お申し出ください。 続きまして、会議での注意事項について説明します。 発言される場合は、挙手をしてください。事務局または会長が発言者を指名しますので、最初にお名前を言っていただいた上で、ご発言いただきますようお願いいたします。 小野委員は、発言をされる場合にのみ「ミュート」解除していただき、最初にお名前を言っていただいた上で、ご発言いただきますようお願いいたします。発言の終わりには「以上です。」とお知らせいただき、「ミュート」にしてください。 本日の会議は、「松江市情報公開条例」及びそれに基づく「審議会等の会議の公開に関する要綱」の規定によりすべて公開にて行います。また、会議録作成のため録音いたします。 なお、本日は16時を終了予定としております。 委員の皆様からのご意見をいただく時間をできるだけ確保したいと思いますので、事務局からの説明は、極力短くさせていただきます。不明な点等がございましたら、質疑や意見交換の際にいただければと思いますので、よろしくお願いします。 続いて、欠席の委員をご報告します。 松江市伝統文化芸術振興審議会委員名簿、 ・No.6 小泉 凡(こいずみ ぼん)副会長 ・No.7 小林 准士(こばやし じゅんじ)委員 ・No.12 田中 麻里(たなか まり)委員から欠席のご報告がありました。 なお、本会議の欠席にあたり、小泉凡副会長より「コメント」をいただいております。こちらタブレットへ保存しておりますので、ご確認いただきますようお願いいたします。 それでは、開会にあたりまして、上定松江市長よりご挨拶を申し上げます。
--	---

2. 市長あいさつ	
(上定市長)	年度末の大変お忙しいところ、伝統文化芸術振興審議会お出かけいただきまして

誠にありがとうございます。

今日は、まず始めに伝統文化芸術振興計画の今年度における進捗状況についてご報告させていただくとともに、来年度の事業計画についてご審議をいただくこととなっております。

ということで私から今年度の大きなイベントを2つ簡単にご紹介いたします。

大きな話題になった1つは、松江城天守の国宝指定を受けまして10周年でございました。それとともに明治8年の廃城の危機を免れてから150年という節目を記念しまして、松江城をみんなでもう一度温め直そうという雰囲気醸成するため、毎年パシフィコ横浜で開かれ、2日間で2万人ぐらい集めているイベント「お城EXPO」を本市で開催し、8000人の方に来ていただきました。

併せて、「お城サミット」も開催しまして、国宝五城の5市長が集まって、今後の城の保全活用についても意見交換をさせていただいたとともに、「雲海」を由志園さんのご協力によりまして発生させまして、6000人の方に来ていただきました。

令和8年度は、プロジェクションマッピング等ですね、松江城における観光の魅力化、或いは文化をもう一度温めなおすということをやっていきたいと思っております。

もう1つは、昭和30年に、昭和の大修理をしてから70年の月日がたちまして、雨漏りを含め、老朽化が進んでおります。

令和の大修理に来年度から取りかかっていくということで予算計上させていただいておりまして、若干長丁場になりますけれども、できるだけ松江城全面入館禁止にはならないように、うまく営業も両立しながら進めて参りたいと思っております。

そしてもう1つ大きな話題になりましたのは、今日は小泉凡館長はご欠席でございますけれども、昨年の9月から始めました「ばけばけ」でございます。

ちょうど今週、半年間の幕を閉じますが、「ばけばけ」を機にたくさんの方に松江を訪れていただいております。

小泉八雲旧居や記念館は前年同月で見ると3倍から5倍の入館者でございますが、オンライン予約システムなども導入しましたので、そんなに大きな混乱はありませんでした。

また駐車場も手当てをしていることもあり、松江城も登閣者数が2割・3割増えている状況でして、非常に観光振興に寄与していると思っております。

ドラマに出ております、城山稲荷神社や月照寺、八重垣神社も非常に観光客が増えておりまして、「ラフチャリ」という電動アシストつき自転車も導入いたしましたが、これもたくさんの方に乗っていただいております、効果があらわれております。

松江歴史館におきましても、「ばけばけ」の企画展示をやっており、たくさんの方に訪れていただき、来週末だけではございますが、お化け屋敷も開設しておりますので、皆様よろしければまたご観覧ください。

またカラコロ工房においても、「ばけばけ展」をやっておりまして、当初は3月29日までの予定でございましたが、非常に好評ですので5月10日まで延期させてい

	ただいております。 こういったものが一過性にならないように、小泉八雲とセツの検証と、また、インバウンドを含めた観光の魅力化を、「ばけばけ」を契機にさらに取り組んでまいりたいと思っておりますので、来年度につきましても関連する予算を計上させていただいております。 1つ申し上げますと、5月中旬に松江市役所の新庁舎グランドオープンいたします。そのタイミングに合わせて、1階に「ばけばけ」のドラマセットを再建し、展示をさせていただきます。 無料で皆さんに開放し、たくさんの方に松江市役所に観光目的でも訪れていただけるように、しつらえたいと思っております。 そしてさらに来年度は、石橋委員もいらっしゃっていますが、佐陀神能がユネスコ無形文化遺産に登録されてから15周年という節目でもございます。 他の地域から神楽にも来ていただいて、「神座(かむくら)」という行事を開催させていただくとともに、隔年で伝統芸能祭を開催しておりますが、このタイミングで同時に開催をさせていただくことを予定しております。松江の伝統文化を市民の皆様、また観光客の皆様にも親しんでいただける機会になるものというように思っております。 令和7年度も8年度も多くの企画が目白押しでございますが、文化力を生かした魅力あるまちづくりに引き続き取り組んで参りたいと思っております。 本日は委員の皆様により忌憚のないご意見をいただきまして、さらにブラッシュアップを重ね、来年度を迎えたいと思っております。何卒よろしくお願いいたします。
--	--

3. 会長あいさつ	
事務局 (桑原部長)	つづきまして、垣内会長よりご挨拶をお願い申し上げます。
(垣内会長)	本日、春の暖かい日差しのなか会議を開催させていただきますことを大変うれしく思っております。 また市長のご挨拶にもあったように、松江市は今、文化で大変な盛り上がりを見せているということも大変嬉しく思っております。 飛行機で参りましたが、飛行機は満席でございまして、また、特急を使ったら、季節の繁忙期割増ということで、ちょっと値段も上がっておりました。 さて世の中的にはですね、文化で稼ぐというようなことが非常に前面に出てきておりまして、今は国が設置したミュージアムでも、展示に関しては入館料を、例えばインバウンドだと二重化価格にして、しっかりと負担をしていただくとか、一定程度の収益を上げないと再編を考えると、これまでにない動きが出てきている中ではありますけれども、私自身は文化で稼ぐにしても、誘客するにしても、その文化的な価値を作り、そしてそれを守り、育てて、次につなげていくという、そういうインフラ整備がないと、そもそも、稼いだり人を呼んだりということもできないと、いうふうに強く思っております。

	おります。 その観点からこういった会議において、非常に丁寧に、条例の理念を具現化して、計画にして、そしてその計画の進捗管理をフォローアップする松江市さんのこの姿勢を、高く評価するとともに、先生方と、きちんとその意見交換ができるということ、貴重な機会であると思っております。 本日も、ご意見を頂戴しながら、よりよい方向性を目指していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
--	--

4. 議事	
事務局 (桑原部長)	それでは、ここからの進行は、条例第 11 条第 2 項の規定により、会長が議長となることとなっておりますので、垣内会長にお願いさせていただきます。
(垣内会長)	会長を仰せつかりました垣内が進行させていただきます。 本日はお忙しい中、上定市長もご臨席ということですので、大変重要な会合であると思っております。時間的な制約もございますので、早速、進行に入ります。 次第の4「議事」について、事務局から説明をお願いします。
事務局 (加藤係長)	《説明》 (1) 松江市伝統文化芸術振興計画 第2期実施計画について ①令和7年度事業の進捗状況 ②令和8年度事業計画 ③令和8年度版松江市伝統文化芸術振興計画 第2期実施計画
(垣内会長)	ありがとうございました。ご意見や質問等ある方は発言をお願いします。また後ほど、意見交換を予定していますので、そこでご質問いただいても構いません。 ここでは、今のご説明に関して何かご不明点などございましたらお願いいたします。資料は事前に配布もしていただいておりますので、概ねご覧いただいているかと思います。

5. 意見交換	
(垣内会長)	事務局からの説明などを踏まえ、5「意見交換」をさせていただきます。 非常に貴重な機会でもあり、しかし時間的に制約もあるという中でございまして、全員からお1人約4分程度のお話を頂戴することを想定しております。もし時間が余れば、終了時間の4時頃までの間、自由にご発言いただく時間をとりたいと思っておりますが、まずは、4分程度で一巡させていただければと思っております。 なお、恐縮ながら発言は五十音順ということで、進めて参りたいと思います。
(石橋委員)	佐陀神能保存会会長を拝命しております石橋です。お話をするのに資料を作ってまいりました。(※別紙、資料「松江市文化振興の課題」参照) 令和3年度から本事業を推進してきておりまして、初年度から審議委員としてやって参りましたがけれども、文化振興課という単一のセクションに業務が非常に集中して

いるのではないかなと思っております。

当初、計画段階のところで市全体の重要政策として、組織横断的な推進をされるんだろうなと思って期待をしていたところですけども、進んでいくうちになんとなく事業が小規模化しているように私は感じております。

このままだと、松江市の誇る文化資本が、行政の縦割りの頭で、守りきれずにつぎ足していつてしまうのではないかと、自分の団体を通じて感じてしまったので、これを何とかできないかと思っているところです。

孤軍奮闘で文化振興課でいろいろとやっていただいておりますが、先ほど申しましたとおり、我々の事業であれば観光協会でこういったチラシがございますけども、特別公開をしたり、そして、こどもが体験をする場であれば、学校の授業の中で地域のものを勉強する機会を設けたり、公民館では「子ども佐陀神能教室」をやっておりますが、そういうのがバラバラになってしまっている。

一本の筋として計画ができてないっていうのをすごく感じていて、そのことは文化振興課にもお話をしているところでございます。

ですがたくさんの事業を抱えていらっしゃるところでは、なかなか難しいのではないかなと思っております。

先ほど 4 つの重要課題が出されましたけども、例えば単一の事業に関しては、政策が繋がってない。

小泉八雲さんのことについては、非常に理路整然とまとまっていて良いと思いますけれども、それぞれの分野に対してもう少し 1 つの線として、串刺しにして 4 つの政策がうまく回れば良いと思います。

やはり、全方向を平等に支援しないといけないと、立場上そうだと思いますけども、できれば、将来的に松江市のこれが特徴なんだ、これが誇るものだということをトリアージする、いわゆる、今危機的なものを、特に文化振興の方であれば、これを集中的に助けるそして将来的にどうなっていけばいいかというグランドデザインを考えた上で各部署と連携ができないかなと思います。

この図のとおり、松江市の高い文化力を維持発展するには、緊急性の高いもの、そして戦略で活用できる松江のブランドとして素晴らしいと認めるものを集中的に投資されたらどうかと思っております。

そして、文化を軸に市役所をつなぎ直していただきたい。文化振興課や学校の教育であるとか、それから観光、都市計画、それぞれにしっかり連携をしていただきたいと思います。

専門的な人材も登用していただいて、行政の枠を超えたこのようなネットワークを導入して欲しいと思っております。

以前の会議で、専門性のある方をお願いしますということで、昨年末にそれが決まりましたということをお伺いしたんですけども、それがどう活かされているかってのがいまいち分からないところがあります。そういったところを強化していただきたい。

	そして、持続可能な継承モデルを考えていければと思っております。 そして「目指すべき未来」です。 「市民の姿」、郷土文化を誇りとして次世代につなぐことが、生きがいとなるような循環。「観光の姿」として、松江にしかないもの、松江の魅力的なもの、特にこれだというもの、世界中を惹きつけられるようなものを、もう少し集中的に選択して集中投資をしていく。そして、支援の壁ができないように、いろいろな部署が横断的に1つのものに対して将来像を作って、このように進んでいければと願っております。
(垣内会長)	ありがとうございました。 この伝統文化芸術振興審議会は条例設置の委員会ございまして、条例の名前が、「松江市の文化力を生かしたまちづくり条例」です。 だからこそ上定市長もご臨席になって、松江市全体で、全庁的に関わってくださっているというふうに理解しております。 ただ、その中でやり方、方向性は条例に入ってるとしても、実際にどういうふうにやっていくのか、ということについては、いろいろな考え方があるかと思いますので、大変貴重なご意見をちょうだいしたと思っております。 私自身は、行政がすべきことと、しないほうがいいことがあると考えておりますので、そのあたりをうまく腑分けをしていただいて、自走化できる、そして持続的な文化振興ができればいいなと思っております。
(大隅委員)	今日は、松江市における学校の地域展開が、地域の文化振興にも大きな影響を与えるということについてお話ししたいと思います。 地域展開については別の部門で話し合われていることと思いますが、現状少なくとも、地域の格差だとか、移動手段の問題だとか、親の負担だとか、学校の施設の問題だとか、様々な課題があるかと思います。 例えば松江音楽協会では、小中学校の音楽の先生と話す機会が多いんですけども、中学校ではまさに今、地域移行、地域展開の話題を聞くことが多くなってきております。 現場では音楽系の部活動をしている生徒も少なくなってきたと聞いております。 それから選択肢については、いろいろなことをやりたいと思ってもなかなかやれる環境になってないということもあります。 市内中心地はまだその選択肢というのはあるかと思いますが、郊外になると、こどもが減ってですね、そういう選択肢も狭まってくるというような状況だと思います。 吹奏楽などはパート練習では複数の部屋は必要ですし、大型楽器を運ぶのも大変なので、合同でやるってこともなかなか大変だと思っています。 民間の文化団体に入ればいいかもしれませんが、周辺地域のこどもたちは、スポーツに比べて受け皿や、指導者っていうのは十分ではありません。市内に通うのも大変だと聞いております。 また、スポーツ部活動を中心に議論が進んでいると聞いて、文化系の部活動はなかなか議論が、顕著に現れないようなお話も聞いております。

	文化系部活動についてもですね、受け皿をどのようにデザインするかっていうことを、もっと議論が必要ではないかというふうに考えてます。 例えば拠点について、学校を拠点とするならば、その学校の開放、今セキュリティの問題もありますけども、そういうことも抜本的に見直すことで、そこを地域の集まりができる施設にしてしまおうとか、或いは、活動そのものを、中学生だけがやるのではなくて、大人と一緒にやるとか。 また体験の選択肢を広げるとすれば、1 学期は例えば、合唱と日本音楽で、2 学期は美術工芸みたいな、何か時期を分けて、いろんなことが体験できるようなことも検討されてはいいかなということを思っております。 青少年の活動は、大人になってからの活動にも大きく影響してくると思っており、対策をしないと、例えばプラバホールの入場者数が少なくなるとか、そういうところに繋がってくるのかなと思います。 ひいては、将来の松江市民の活力っていうものが、衰退してしまう要因にもなるんじゃないかと思っております。 部活動の地域移行、地域展開は、芸術文化の振興の視点からも、地域コミュニティの維持にとっても大きなファクターだと考えております。 とにかくスポーツ中心の議論になりがちですが、現場の先生や家庭の真の声をよく聞いた上で、学校だけでなく、地域全体、或いは行政と一緒にやってデザインするということが必要ではないかと考えております。
(垣内会長)	部活動の地域移行、特にスポーツが先行してるんですけど、やはり文化についても非常に重要な部分があるかと思えます。受け皿大事だと思います。 ありがとうございました。
(大田委員)	県外出身で、今は 20 年ほど松江に住んでおります太田と申します。 県外出身なので客観的に、どう松江が見えているのか、という視点をいつも大事にしています。 やはり全国的に言われているような文化の担い手というところで、若年層の人たちが少なくなっているという課題が松江市にも顕著に現れていると思います。 その中で松江市が特殊だなと思ったのは、資料の 2、KPIの進捗管理表の一番上のところです。そちらに書いてある松江市民の誇りっていうところ、目標には届いてないものを着実に向上してるっていうのは全国的にも、すごく誇っていい数値なのかなと思っています。 資料の 4 の方でも、若年層への働きかけがすごく重要だというアンケートの結果が見えているので、やっぱり若年層、担い手が減っている、そして働きかけなければいけないっていうところは課題として、早急に対応していかなければいけないところなのかなと思っております。 SNSへの周知というのが重要なんですけども、見るとか、聞くという受け身の体験、経験から、自らやってみたり、若者が自ら作り手として手を出してみたいかな、やってみたくなると思わせるような仕組みへの投資、というのを強化すべきではないか

	と考えています。 そこで1案考えてきましたが、松江ってのは、すばらしい背景や建築的にも素晴らしい施設がありますけれども、これらの施設が単体で運営や活用するのではなく、施設の間でのネットワークや協力を強めて、カラコロ工房で、プラバホールで、或いはしいの実シアターで、同じ期間に同じテーマでイベントや体験を行うことで、1つのテーマに深みを持たせる、或いは複数の視点から、何かそのテーマを掘り起こすというアプローチができるのではないかと考えています。 また、松江市内の複数の施設に赴くことで、自然といろいろな場所に足を運ぶことになって、若い人たち、こどもたちの思い出と愛着のきっかけになるのではないかなと考えていました。
(垣内会長)	将来の担い手だけでなく、実際自分たちで積極的に動くということですね。かつてはコンシューマーとプロデューサーと分かれていましたが、今インターネット時代になって、作り手が直接ネットに作品を載せることができ、そして、コンシューマーだった人たちがそれをフィードバックする、或いは二次的利用をするというような形で、よくプロシューマーって言いますけれども、このような多様な展開ができるようになったという時代が来ているとよく言われています。 その観点からも様々な展開を、実際やっていくという点で、貴重なご意見を頂戴したと思っております。
(小野委員)	「ばけばけ」がものすごく盛り上がってるということで、東京でも、いろいろなところで「『ばけばけ』見てますよ」と僕に言うてくる人たちが結構多く、かなりインパクトあるんだなとすごく感じております。 先ほどからも小泉八雲の「アフターばけばけ」をどうするかというお話だったんですが、ちょっとご紹介しておきます。 これは市の方はもうご存じだと思いますが、経済産業省が3月10日、2週間ぐらい前にIP360というコンテンツ産業支援メニューというのを発表しました。 これは、日本初のコンテンツの海外売上を2033年までに20兆円にするということで、かなり踏み込んだ支援内容になっています。 そのIP、特にその漫画、アニメ、ゲーム、実写、音楽の5つの部分を、かなり強力に推していて、今回すごいのが、上限1,000万円、メニューによっては最高でも30億円の補助金が出ます。 プラットフォームなので、なかなか難しいとは思いますが、ただこうやって映画のロケ支援とか、例えば新規IP創出、この辺りはもしかしたら、松江市の中でも何かその「アフターばけばけ」を盛り上げるための何かコンテンツ作りに使えるのではないかなと思っています。 これも上限1億円って結構大盤振る舞いな予算を編成しているので、こういうのを利用しながら、「アフターばけばけ」を盛り上げて良いと思います。 特にここ最近では東京でも、IPIPとすごく言われます。弊社にも、大きな商社や広告代理店などがDLEに来られて、IP一緒に作りましようとか、どれぐらいIP作ってま

	すか、というようなことを尋ねられます。 いわゆる彼らが言いたいのはキャラクターIPという物語ですとかアニメとか、漫画のようなことですが、もう本当に日本政府、そういったIPはもう日本の、新たな天然資源だっているぐらいの勢いで、こないだも経産省の方がおっしゃってたんですけれども、それぐらいやはり世界から日本のIPというのがすごく求められてると。 今日本で一番求められてるものは、車でもなく、家電でもなく、実はIPだって言われるぐらい、喫緊の、何とかて取り組まないといけない事実でして、特に小泉八雲の「ばけげ」こそ、いわゆる「雪女」だったり「むじな」であったり、「耳なし芳一」だったり、まさにキャラクターIPなんですよ。 ああいうものを活用して市内で盛り上げるような、例えば市内のクリエイターですとか制作会社の皆さんと一緒にジョイントベンチャーで、ものづくりをするみたいなことがあってもいいのではないかなと思っています。 こういう制度もありますし、これ実は経産省だけじゃなくてですね、文化庁の文化芸術活動基盤強化基金というのもありますので、ちょっと皆さんも結構ここは関わるところだと思いますので、気になった方ご覧になっていただいて、利用できる補助金などありましたら、ご活用されてもいかがでしょうか。 松江市の取り組みと少し外れることではありますが、毎回やはりそういう資金の問題とか出てくるので、経産省と文化庁が今すごく大盤振る舞いしてますよ、ということをお伝えしたかったです。
(垣内会長)	高市首相の肝いりの分野の1つでもありますので、おそらく役所の方もそれに乗って予算要求をされるかと思います。 何か上手く活用できるのであればぜひ。ただこれマーケットベースで動く話ですので、なかなか行政主導では失敗する可能性もあるので、そこら辺をうまく協働をしていただければと思います。
(園山委員)	私共は、各種助成金を獲得するための情報等については、常に目を皿のようにして見ておりますし、40年以上助成金を取り続けていますので、もし助成金を取りたいけれども、どうやって申請したらいいかわからないという方があれば、幾らでもお手伝いできます。 垣内先生が、「行政がすべきことと、しないほうがいいこと」についてお話しされましたが、行政では行政の仕事を、市民が頑張らないといけないことは、市民が力を合わせて、工夫し合って、「人」を作っていくことが一番大事であると思っています。 何においても「人」です。ですから、行政では「人」を育てていただいて、私たち市民は、助け合って、「人」を作っていくことが大事だと思います。 音楽は毎日どこかで音が流れていますが、演劇は、見たいと思って、わざわざ出掛けていかなければ見られないものですが、そういう演劇を、私たちは非常に大事なものであると思っています。私の場合、こどものときから情操教育がすごく大事だと、耳にしてきました。そのおかげで私は、こどものときからいろいろ舞台芸術を見るチャンスを得ました。

	それで例えれば、この伝統文化芸術振興の基本的な考え方として、種まきと、成長期と収穫期と、3 つできたわけですが、例えば、しいの実シアターでは、「誘客・集客・創客」については、40年以上前に、演劇評論家の衛紀生さんから学びました。 「誘客」は、例えば、しいの実シアターの桜の美しさで誘客して来場してもらい劇場の魅力も感じていただく。その時、「しいの実シアターは遠いところにあると思っていたが、25 分で行けるじゃないか」と感じてもらう。そして、「こんないいところなら、一度観劇してみたい」と思ってもらう。稽古も無料見学できますし、ゲネプロは安い値段で企画して来場しやすいようにしています。 「集客」は、一般公演は勿論ですが、市教育委員会と協働して、学校の団体観劇もできるようにしました。これは、大変良いことです。 「創客」は、夏休みに、小・中学性を対象に演劇を楽しむ講座等を実施しています。こういう 3 つの仕事を同時に実施していくことが重要です。 種まきと成長期と収穫期はありますけれども、常にこの 3 つを、松江市さんにもやっていただきたいと思います。 もう一つ、プラバホールでは、アウトリーチが認められていますが、しいの実シアターでは、認められていません。 八雲町にある劇場へ、市の北部からはなかなか来ることができません。そういう人たちのところへ、しいの実シアターにきた人形劇を北部の公民館へ持っていきたいのです。 アウトリーチは、わずかなお金でできるので、指定管理事業として認めていただきたい。 もう 1 つ。様々な事業が、旧松江市に集中しがちです。やはり合併した周辺部へ、もっと市民が出掛けていけるようにしていただきたい。これは行政がすべきことだろうと思います。例えば、「のるーと」というバスがありますが、市長も土日運行できるように頑張っているとおっしゃっていました。実は熊野大社、ゆうあい熊野館、しいの実シアターは、土・日・祝日には公共交通はありません。そうすると車のある人しか来られない。そこで「のるーと」について、もっと、市民目線で考えていただけないか、と思います。これは行政の分野です。このように行政で頑張ってくださいと、我々市民が頑張っていくことの両方で、まちづくりが進むと思っております。
(垣内会長)	長い歴史と経験に裏付けられ、補助金獲得のノウハウも蓄積されてるということで、ぜひそれを共有していただきたいと思います。 また最近文化施設でも、施設の壁を越えて外に活動していく、社会に染み出していくというような流れが非常に強くなってきております。 これもアウトリーチという形でしっかり位置付けられておりますので、ぜひそのあたり、物理的な壁を乗り越えて、様々な活動を展開してもらえるといいなというふうにも拝聴いたしました。
(高屋委員)	私の方からは 2 点ほど、しばってお話をしたいと思います。 まずは、こども達のふるさと教育や伝統文化に関する体験教室といったところで

	す。いわゆるこども達が、そういうものに関わる入口に関する部分では、結構数が動いているのかなという印象を持っております。 私もこどもの参観日へ行きましたが、こどもたちが松江の歴史や文化について調べて、それを発表する授業がありました。親の方も忘れていたり、逆にそれで勉強しているような状況でしたけど、こういう形でこどもたちもそういうものに触れていくという、接点はすでに生まれているのかなというふうに思っています。 ただ、これから 10 年後にそういったこどもたちが、実際にそういうものに仕事として関わったり、地域の伝統芸能に関わったり、どこにどういうふうに上手くつなげていくのかというところが、1 つの問題になるかなと思います。 資料 4 の 26 ページのところでもすでに後継者の担い手育成だとかそういうところで触れられていますけれども、その中で、職人商店街創出だとか、そういったところも関連づけていらっしゃるところであります。 松江でも白潟という地域ですけれども、もともとは中世以来、この地域というのは職人や商人たちが住まいにしている、江戸の初期にいわゆる行政的なその都市計画を行って、城下町の中に取り込んだ、そういった地域です。 そのあと、交通手段として鉄道なりバスなり、最近は「まちなか」が空洞化したりとか、そういった問題もあって、こういった地域を改めて、行政的なところで少し関わり支援して、にぎわいを出していくということが非常に重要になると思っています。 それからどうしても松江城とか、八重垣神社など点と点というのは非常に発展している状況ですけれども、その間を結ぶ、ルート、対流を生み出すことはまだまだこれからの課題かなというふうに思っています。 先ほど園山委員もおっしゃったんですけれども、風土記の丘でもですね、熊野大社に行きたいというお客さんがどうして行けますかというご質問が非常に多いです。 風土記の丘やかんべの里の自転車を借りて熊野大社へ行くという方も結構いらっしゃいます。 なかなか自転車のバッテリーの問題など難しいところもあり、その点と点としては非常にいいものがあるんだけれども、そこを結ぶことがなかなか難しいこともあります。 すでに検討されている無人バスといったものの進展も期待していきたいなと思っています。
(垣内会長)	どの地域でも、回遊性とか対流とかですね、非常に重要なテーマになってきております。まちづくりとも直結する部分かと思えます。ぜひご検討いただければと思います。 では田中委員をお願いします。
(田中 藤一郎 委員)	私からは 2 点ほどお話ししたいと思います。 まず 1 点目が、後継者の育成についてでございます。 先ほど石橋委員さん、佐陀神能保存会さんの発表がありましたけれども、実は、ご存じかもしれませんが、鹿島公民館と佐陀神能保存会で話し合い、令和元年、今から 8

	年前に、伝統文化の継承と後継者の育成ということで、小中高校生を対象に、こども佐陀神能教室をやっています。 現在、11 名が参加していきまして、中学生高校生は毎週日曜日の夜、佐陀神社の舞殿で石橋会長さんのご指導のもと、保存会の大人と一緒に活動しております。 小学生につきましては、月 1 回、第 3 金曜日の夜、公民館の方でやっております。 今の中学校 3 年生はもう 7 年目を迎えてとても上手になって、市長にも見ていただきましたが、もう自分たちでできるようになり伝統芸能祭で発表もさせてもらっています。 先般 3 月に石橋会長さんたちが、近くの小学校に行って授業されました。実際に衣装やグッズを持って行って、4 年生のこどもたちに体験させました。 そうしたら、次の日に先生が、女の子 4 名が新しく入りたいと言っていますと申込書を持ってくれました。 早速こどもたちが興味持ったので、「何で入りたいの」と聞いてみたら、「自分たちもやりたい、面白さがある。」 どこが面白いかと聞くと、「佐陀神能は見たときはあんまりパーツとしないけども、リズムも変わっていて面白い」と言っていました。 今はテレビなどで音はあるけれども、こどもたちはそういう変わった面で興味を持つなということを思いました。 これからもやろうと思っていますけども、まずこどもたちのところへ実際に出かけ、体験させる、それが実践する 1 つの方法だと思っています。 10 月には中四国公民館研究集会がありまして、子ども佐陀神能教室の取り組みについて事例発表することになっております。それから、10 月の下旬には、山陰中央テレビが作られる「ダイドー 日本の祭り」で 1 時間番組が全国放送されます。 2 点目です。青少年の活動と、今後の公民館の役割でございます。 今年度までは、各公民館をブロックに分けて、市民学習発表会を実施していましたが、残念ながら、今年度で、いったん中止になりました。 理由は、地域の文化活動・サークル活動していらっしゃる皆さんの高齢化です。 後継者がいない。出演する若い人たちがいないということです。 公民館で活動していらっしゃる皆さんに聞いたら、「もう自分たちでやっている活動は、古臭くて魅力がないけん、みんな入らんわね」というふうに言っておられて、そうなのかなあと思っていました。 一方ですね、発想の転換を考えてみようと思っています。 先般、中学校 3 年生と未来プロジェクトを話し合いました。その時に何がしたいか言いましたら、「映画が作りたい。自分たちが、鹿島町・松江市のPRを兼ねて、自分たちが出て、地域の方に出てもらって、映画を作りたい」と言いました。 これは錦織監督さんが映画祭でやっておられますけども、やはり自分たちで作って、楽しみたいと。 同じように松江市には高校生の演劇部が集まりまして、「あめいろ」というのを作っ
--	---

	て発表しておられます。 このように、若者を育てるためには、「何が一番興味を持つことなのか」をちょっと考えてみようかなと思っていますので、公民館でもそのようなことをやってみたいなと思っております。
(垣内会長)	体験の重要性とか新しい試みと言ったようなことのご紹介もちょうだいいたしました。 それでは、田中昌子委員、お願いします。
(田中昌子委員)	先ほど来、いろんな委員さんの話を聞いて、なるほどなるほどと思っておりますが、資料 4－26 ページの方で私もそうだなと思ったのが、学校・地域で知る・体験するというところです。 前回前々回のこの審議会でも申し上げたかもしれませんが、小学校低学年のときの、記憶といいますか、そういうものはずっと残っていると思っています。」 先般、三菱マヒンドラが、ちょっと悲しいことになりましたが、私が小学校のときに、道徳の本に「佐藤造機」というのか、どんなふう生まれたのかということが、すごく丁寧に書かれていました。また、佐陀川の「清原太兵衛」さんなど、郷土の先人がそういうことやってきたんだよってというのが、私の中にすり込まれています。 そういうことはやはり大人になっても残っているんだなということをつくづく感じております。 先般、県外からちょっと講師を招いてお話をしたときにも、「松江の由来はなに」とか、「松江城はいつ出たの」とか、私はその辺はかじってる人間なので幸いに答えられたところもあるんですが、町の歴史文化について問われたときに、小学校のときにすり込まれたその記憶をたどりつつ、いろいろお話をさせてもらいましたが、そういう昔習っていたことが、地元とか地域とか、そういうところのコミュニティから学んだものというのは、ずっと何十年も残るんだろうと思います。 知らない知らない食わず嫌いではなくて、例えばですけども、コーヒーを飲んだことがない人にコーヒーの味を教えるのは大変です。けれども 1 度でもコーヒーやカフェラテを飲んだことがある人に対しては、コーヒーはこうでね、といえますが、一度も口にすることがないものに対して、味の説明はできないのと一緒に、先ほどからいろいろ素敵な芸術とか文化とかお話されておられますが、それを 1 度も触れなかった人たちは、もうほとんど大人になっても触れる機会がないと思うので、そういうのを大事にしたいと思います。 私ども建築士会としましては、建築文化財として、こどもたちにも、建築の「け」の字にもならないような、ちょっとでき合いのものを使ったプラモを作ったり、色塗りをしたりというところで、小学生になる前の子でもできるような文化祭をして、そこには高校生とか、高専生、短大生とか、そういう建築を学んでいる学生さんにも加わっていただいて、いろいろと作品展示をしたり、協力し合って 1 つの物を作るというふうなことをするイベントを何年か続けております。 そういうふうな形でこどもたちが、例えば 10 人いらっしやったこどもたちが 1 人

	でもその建築の道に進むかということは保証はないんですけれども、どこかそういうことが心の片隅に残っていたときに、将来仕事を選ぶとか、何かしようとしたときの、道標の１つにもなればいいかなということで、今後も続けていきたいと思っております。 もう１点最後長いですが、最近古民家というありがたい言葉ができて、古民家カフェとか古民家レストランとか、そういったものが割と重宝がられてますので、古い建物もそれを財産として大事にしようということで、それを宝探しのように見つける方とか、それこそ松江の中心地でも、中心地じゃないところでも、こんなところにこんなお店があったのっていうその、新たな発見というのが、まちづくりの１つにもなってると思います。 その不便さを楽しむような、そういうまちづくりもしていきながら、不便な場所は、駐車場もないですし、公共交通機関を使っても非常に不便なので、自分の足で歩いてみるという体験ができますので、そういったことも子どもだけじゃなくて大人も体験していけば、いいまちづくりの１つなんじゃないかなと先生方のお話を聞いて感じたところでございます。
(垣内会長)	文化とか芸術っていうのはいわゆる経験財というふうによく言われまして、実際に消費、或いは体験をするまでその品質とか価値というのがわかりにくい。 そのためマーケティングだと変な言い方ですけどサンプル提供とかですね、あと口コミですね、最近はSNSなどいろいろなコミュニティがありますのでそういった、口コミも非常に重要だというふうに聞いております。 それでは続きまして原田委員お願いいたします。
(原田委員)	令和８年度の事業について見させていただいたんですが、今までの繋がってきた子どもたちの事業に対しても継続してされるということで良かったなというふうに感心しています。 学校の事業としても教育委員会の事業としてもですが、先ほど石橋委員もおっしゃってましたが、やはり横展開といいますか横の繋がりとして、わくワーク職業体験も企業の方から子どもに対しての事業だと思いますが、横の繋がりとして子どもへ関わる事業をどんどんとつなげて欲しいですし、それをみんなで共有したいと思います。 やはり「やっていることを知らないからやってない」と思ったり、「こっちではやっているんだけど、それが足りないと思って、重ねてこっちでもやってしまうとか」、そういうこともあったりすると思うので、限られた予算の中で効率よく、どの部署でどういうことが行われていて、それがどういうふうに教育に繋がっているかというのをみんなで共有して、やはり、ここができてないなというところを目指して、事業を作っていたきたいなというふうに思いました。 そして今日デジタル新聞記事で、今年の北高の大学受験が高い水準であったという記事が出ていました。 ちょうどうちの子がこの学年におりまして、保護者として感じるのは、みんな学力高

	い子が多いなというふうに思っておりましたが、同時に、文化的なところも高いなというふうに思いました。 文化的行事に積極的であったりですか、スポーツも頑張っていたし、あと私の子どもが文化部だったということもありますけれども、文化部の子たちが３年生になるまでしっかりとその部活を最後までやっていたとか。 今は学力がなかなか上がらないというところを小学校も中学校も課題視されていますけれども、学力を上げるにも、そもそもの心の力が大事であるのではないかと考えていて、今更ですがやはり、その心の豊かさを支えるのが文化であったり、地域であったり、そういうところが関わってくると思います。 ですので、この文化条例での取り組みも、子育てにおいてとても重要であると考えます。 また文化は目に見えないので、それがどういうふうに自分に蓄えられて、どういう結果が出るのか、というところがなかなか伝わらないと思いますけれども、学力も結局はその文化力が繋がるとか、目に見えるものとつなげてその大事さを分かってもらい、そういうことも大事ななと思いました。 またそのように考える子育て世代も着実に増えてきてると思うので、そういう人がしっかりいろんな情報を得て、それを体験できることに繋がっていったらいいなと思いました。 次に先ほど、事業の説明していただいたんですけども、効果的な情報発信のところの事業がありましたが、やはり具体的な事業はどちらかというと観光の方によっていて、実際松江の文化を伝える情報発信として、アンケートで求められていったものとはちょっと違う印象を受けました。 条例の中でこういうことをやるというところはしっかりと入ってきていますが、今やっている事業として見た場合には、その情報発信のところに出てくる情報も、ちょっと違うものも必要ではないかと思いました。 それともう１つ、アンケートで１度も芸術鑑賞したことのない割合が半分以上という、ちょっと残念な結果が出ていましたけれども、他の設問のように、なぜか、というところを私の個人的な希望でもあります聞いてみたいと思いました。 最後に、市長が言っていた「ばけばけ」セットが設置されるということですが、是非ともグッズコーナーを作ってもらいたいと思っています。 私、結構グッズが欲しいなと思ってなかなか手に入らなかったもので、せっかくですので、いろんなグッズを一同に集めて、もう一度盛り上げてもらったらいいかなと思います。
(垣内会長)	情報共有、情報発信は非常に重要な点かと思っています。 また「ばけばけ」が非常に魅力的だというサジェスチョンをいただいたかと思っています。 それでは続きまして、松原委員、お願いします。
(松原委員)	私は観光ガイドですので、お客さんを案内することが多いため、どうしてもそういっ

た目線になりがちなんですけども、先日、東京から武蔵野大学の教授が「ばけばけ」を見て松江に来たと言っていました。

そして松江はいい感じに観光化してるっておっしゃっていました。オーバーツーリズムになってない。人がちゃんといらんだけれども溢れてはおらず、今すごくいい感じで人の流入ができてるのかなとおっしゃっていました。

なので溢れかえらない、今の程度というのはすごくいいのかなと思います。

今「ばけばけ」が盛り上がっていて、「アフターばけばけ」ですが、どうしてもこの盛り上がり、どこに着地点を置いておられるのかというのが気になります。

ドラマなどで発信した観光・まちづくりというのは、急速に終息しがちで、そういうものも見てきたので、何とか続いて欲しい、定番化して欲しいとは願っています。

今すごく盛り上がっていて、本当にどこに行っても、おせんべいにまで「ばけばけ」が出ていて、スーパーでびっくりしましたけれども、しぼまないように、定番化できるようにしていただけたらいいなと思います。

そして「ラフチャリ」を見ていてすごくいいなと思いますが、あれも単に街を周遊するというのもあるんですけども、私がちょっと関わっていますが、八束町では肩掛けAIを使ったまち歩き、というのも、今、実験的にやろうとしています。

これは、肩にかける肩たたき機みたいなものですが、これを引っかけて会話をするとそれがAIで答えてくれるものです。

でも AI はネットに転がってるものしか拾えないので、AIに好みの回答を得るために、その解答例っていうのプログラミングして組み込みます。それを地域の人たちが作るんです。

八束町は事前にマップというのを作っていて、それはこどもたちが、自分の好きな場所、ポイントを書いて作ったマップです。これはエスさん、イラストレーターさんに作ってもらってるものですが、そのような感じで地元の人たちが「ここがいいよ、そこがいいよ」と言ったところを吸い上げたマップであつたら、観光として新たな視点にもなるのかなというふうに思いました。

それと、私がジオガイドということでジオパークに関わっておりますが、いろんな大学の先生から、今こどもたちの理科離れと言われていますが、ジオパークはその地形と地質だけではなく、文化や歴史もSDGsも丸ごとひっくるめたものがジオパークになってます。

こういったものを継続して総合的に体験できるようなクラブ活動っていうのができないかなとは思っています。

学校個別とか、いろいろ見てはいますけれども、もっとそういう学校をとっぱらって、もっと地域で何かできないかなというふうなことはちょっと考えています。

年に1回、ジオパークの全国大会というのがどこかの地域であって、今年は桜島で行われます。大体これに行くと、高校生が発表する機会があります。たくさんの大人に囲まれて、難しい顔した大人に向かって、自分の地域のことを発表します。

聞いてみると大したもの、ものすごく立派に、自分の地域の財産だとか、誇りな

	どを発表されています。 そういった場にこどもを連れて行きたいなと思っているので、そういったところにも力を入れていただきたいと、これは個人的なお願いですがと思っています。 あともう1つは、園山委員がちょっとおっしゃいましたけれども、どうしてもそのまちづくりとなると、松江城中心の話が多いので、できればもっと島根半島、日本海側、せっかく「ばけばけ」がありますから、島根町加賀とか、私が個人的に関わった「安部榮四郎記念館」などもっと範囲を広げて政策をしていただきたいなと思います。
(垣内会長)	地に足のついた、具体的な方法論のご紹介から、幾つかのご要望まで頂戴しました。ありがとうございました。 それでは森山委員お願いいたします。
(森山委員)	松江の茶の湯文化は、食文化、生活文化、そして美術工芸文化、そして伝統文化、建築物、建築史と、すべて松江市内の生活文化に深く関わっているのが、この茶の湯だと思います。 今日は茶道連盟が4月に発行する「和敬13号」、これが昨年の各流派の活動や、2026年4月から2027年3月までの歳時記等を掲載しておりますので、またちょっとご覧いただければなというふうに思います。 茶道連盟は、不昧公没後200年祭に協力しようということで、12年前に11流派16会派で発足しましたが、最近は会員の高齢化もあり会員数が非常に減少しています。 発足当時は3,800名の会員でスタートしましたが、今は1流派2会派が高齢化、そして会員数の減少で解散をされ、今は10流派14会派で、会員数2,400人と激減した状況になっています。 そして茶の湯に関しましては、この伝統芸術文化振興計画第1期計画の中で、カラコロ工房に職人さんの手仕事が見えるお茶室とか菓子づくり体験、そして京店から天神町にかけては、同じく手仕事か身近で見れる。 そして昨年と11月にはフラットスタイルさんにより、点が線に繋がった職人商店街になったんじゃないかなと思います。 そしてこの4月には、宿泊施設を伴う温泉施設が天神町にできますので、これからますます市民はもとより、観光客が松江の文化を身近で見て、知る場所になるんじゃないかなというふうに期待をしています。 特に先ほど申しましたが、後継者育成が非常に進まない。抹茶ですけれども、「松江藩ちやのゆの学校」や、「松江の文化力推進事業」に取り組んでいただき、茶道連盟で協力しているところですが、連盟独自の新たな取り組みとして、先ほども小野委員から出ました、文化庁の補助事業を受けまして、昨年は伝統文化親子教室事業としまして、「親子で楽しむ松江の茶の湯文化」、そして「食文化推進事業文化フェスタ」として、親子の心を結ぶというものを実施いたしました。 昨年はちょっと初めてなものでして、旧市内の小学生と親子の方を対象に、10月から12月にかけて様々な事業を行って参りました。

	漆工陶芸、菓子づくり、そばづくり体験、花もちづくり、和紙で玉づくり体験を初め、煎茶、そして皆さんご存じだと思うんですが、非常食であった「ぼてぼて茶」、そして着物での茶道体験など、多くの親子に参加をいただきました。 そして今年は市内全域の学生さんを対象に、本格的な茶懐石を盛り込んだような取り組みをいま企画提案をして、文化庁のほうに上げさせていただいてるところです。 そしてまた不昧公の命日にあたる4月24日の茶の湯の日ができて、9年が経つと思うんですけども、毎年独自に各お店もその日に合わせて、取り組みを行ってらっしゃいますし、学校給食で抹茶を使ったメニューが取り入れられ、当時小学生だったこどもたちも高校生、大学生となり、抹茶を身近に感じていただいています。 城下町松江に根付く抹茶、そしてこの抹茶をやはり後継者育成ということで、若年層に向けてさらなる効果的な発信をしようということで、山陰中央新報が発行しております、若者向けの月刊誌「りびえーる」というのがあるんですけども、この4月から島大生、県大学生そして高校の茶道部の皆様に、茶道と旅行紀行をともに発信します。 そしてさらに、連盟に加入してらっしゃる会派の生の声というのを聞くことがないと思いますが、そういった会派の生の声を紹介する情報発信を4月から取り組んでいこうと、少しでも後継者育成に貢献しようということを今、考えているところです。 そして私は明々庵も担当しておりまして、「ばけばけ」効果でかなりの方が松江の文化を知りたいと、個人客を中心に来ていただいています。 ただインバウンドの方が特に多く、また個人客の方もスマホを頼りに明々庵とか、松江市の観光文化施設を歩かれます。 ただやはりちょっと歩道が狭くて、本当はながらスマホは駄目なんですが、スマホを見ながら歩かれると車が双方向から来ますので、ヒヤツとしたという声を聞きます。 また予約なしですぐに昼食を食べられる場所がない。そして松江独特のまちづくりではないんですが、独特の鍵型路で、特に近くの方に聞いてもなかなか移動が困難であるといったようなことが聞かれます。 新聞社の資料を紐ときますと、観光の2次交通の脆弱は、最近では松江駅や松江しんじ湖温泉駅、確かカラコロ工房にもあると思いますが、民間企業が担うシェアサイクルや電動モビリティなどのポートが設置されるなど、少しずつ改善をしています。 ですがどこで乗れるか、またその料金的なもの、そして情報の周知や、やはり外国語の対応がないと言ったような声も聞かれています。 そして維持拡大には高い壁があると思いますが、三重県の伊勢市で試験導入されている「観光型MaaS」。これは移動サービスですが、観光客が行きたい施設や飲食店を選択すると、それが2次交通を勘案した予定額面、自分に合った観光プランが検討できることから、観光客が非常に増えてるということです。 こういったサービスができれば、市民はもとより、インバウンドなど、2次交通と商
--	---

	品整備で点をつないで、さらにこれを松江の文化を知っていただく面で売ることができるんじゃないか、松江を知っていただき、そしてリピーターにも繋がるんじゃないかなと考えております。 特にこの伝統文化芸術 7 つの柱があるんですが、茶の湯というのは、参加いただいている委員さんとの繋がりも非常に多いと思います。 これから「アフターばけばけ」ということで観光客が増えるなか、城下町松江の文化を発信する、継続する 1 つの素案としてですが、山陰中央新報の一面に載りました「おまっちえ」による情報発信を、松江の文化を非常によく知ってるキャラクターというふうに思っておりますので、せっかく「おまっちえ」という新しいキャラクターができましたので、この「おまっちえ」を活用し、さらに「ばけばけ」、そういったもので効果的な情報発信が何のできないものかなということを考えております。
(垣内会長)	茶道と、それから今、世界的に抹茶がブームで茶葉がもう不足して大変なことになって値段が上がってるという、このマーケットの動きと少しくまぐ連携ができてないというようなお話だったかなというふうに拝聴いたしました。 また、モビリティについても非常に重要なサジェスションだったかと思います。 時間が押してまいりましたが私からも 2 点。 まず 1 点目は、このKPIですけれども、令和 7 年度で見ますと、目標値にちょっと未達の実績値が結構多いかなという感じがいたしております。 これは未達だったからだめとかいうことではなくて、なぜ未達だったのか、その目標値の設定の仕方が、まず適切だったのかどうか、そしてまたそこに至らなかった理由は何か、いろいろな障害があるかと思います。外部要因もあるでしょうし、そういったものをうまく、分析を深めていただいてこの資料にも入ってるんですけれども、重要な部分については少し突っ込んだ分析をしていただければありがたいと思います。すばらしい事業をなさってるわけですから、しかるべき目標の設定とその達成につながるように検証いただければというのが 1 点です。 もう 1 点はですね、ふるさと納税が非常に好調のように拝見いたしました。 これは定住人口、それから交流人口、観光でいらっしゃる方々だけではなくてですねいわゆる関係人口ということで、松江を愛して、そして市を支援をしようという方々が増えていくということに繋がる可能性の高い、大事な手法と思います。実際やるときにはいろいろなストーリーを考えたりですね、アプローチの仕方というものも工夫しなければいけないというのはよくわかっておりますけれども、この勢い、モメンタムをぜひ、次につなげていただければなというふうに思っております。 私からは以上 2 点でございます。 本日は、上定市長がご多忙の中、ご出席賜っております。 市長から一言いただけますでしょうか。
(上定市長)	皆様大変活発なご意見をいただきましてありがとうございます。 ちょっと幾つか私の方から補足をさせていただければと思いますので一言じゃな

いところをご容赦ください。できるだけ簡潔に申し上げます。

石橋委員から言っていただきました庁内の体制、特に文化振興課に偏りがあるのではないかとこのところにつきましては、以前もこの場でそういったお話をいただいたことがありました。

そのときにも、関係するセクションとは、会議には私も出ておりますので、当然、各部署に固有に関わるものについては私の方からも指示を出すこともございます。

庁内に政策部という部署がありまして、そこは部長ではなく理事というのを置いております。

理事政策部長といいますか横串を通すことを常に意識してやっておりまして、何か大きなプロジェクトにはチームを組んでおります。

文化振興課が本審議会については前に出てはおりますけども、当然そこから観光部や都市整備部、また一体不可分の都市計画であるまちづくりする上では、さらに密に連携していくということは常に心がけていきたいと思っております。

私がベースに置いていきたいのはやはりこどもたちでして、それこそ「子ども佐陀神能」についても素晴らしい取り組みだと思っており、市長になってから初めて見たものですから、目からうろこでした。

いかなるまちづくりのための取り組みも、教育委員会とこども子育て部というのは欠かせないものと思っておりますので、このご指摘を踏まえて、各部との連携を強化し、また多面的に文化振興、先ほど松江北高校の話もございましたけども、文化力がまた学力にも繋がっていくといったところを実現していきたいと思っております。

また、ご意見をいただいた中で、例えば太田委員から施設間のネットワークのお話でありましたし、園山委員からも「のーと」の話もいただきましたし、高屋委員からも点と点を結ぶというお話がありました。松原委員からも「ラフチャリ」のお話も出していただきました。

まさに言えば2次交通ですが、結節機能については、それぞれ観光資源であったりコンテンツというものは同じところにはないので、ある種、散逸してる状態でありそれをどのように繋いでいくかというのは苦慮しているところがございます。

市域内のバランスのとれた発展を松江市は目指しておりますが、それも市域ごとに、いろいろなユニークな資産があるので、いわゆるコンパクトシティという、まん中に全部を集め、そこで利便性を高めていく、という生活形態は松江市は取れないものというふうにまちづくりをする上では判断しております。

ある種、散逸している地域資源を、それぞれを温めてつなげていくというのがすごく重要だと思っておりますし、そのために、ストーリーと、あとは、2次交通というのが重要だと思っております。

小泉八雲によって繋がるもの、ストーリーが見えてくるというところ、例えば境港の妖怪、出雲の神話、それと松江の怪談という見えざるものがスピリチュアルに繋がるというので、中央公論新社から本も出版させていただいてるんですが、そういったうまくつなげていくのが重要だと思っております。

ストーリー性の話と、物理的な「ラフチャリ」或いはグリーンスローモビリティ、また言っていた「のるーと」はまだなかなかできておりませんけれども、そういったものでうまくつなげていくことは重要だと思っています。

そして、先ほど森山委員から言っていた「ラフチャリ」の外国語対応ですが、今の時点で、英語と中国語と韓国は対応しております。ただ、今後も訴求していかなければいけないと思いますし、ポートがあり 50 台走っております。また大きな声で言いたいのは、出雲市にも行けることです。

出雲市でも全く同じパナソニックでやってる「YUIEN(ゆいえん)」というのがありまして、つまり松江の自転車を出雲で乗り捨てられます。

そんなとこまでいかないだろうと思ったら、ところがどっこいそうなんです、境港にも行ってますし、八雲の方にも行ってますし、出雲大社、稲佐の浜にも行っています。一畑電車で自転車に乗ったまま行くこともできるので、そういうところでも相当使われています。

これ全部、どこを通ったかという情報がビッグデータで取れるので、今その分析を始めています。

松江市の場合には去年の 12 月から宿泊税という新たな財源を手当てしましたので、それを活用することを念頭に置いておりますが、先ほど小野委員から言っていた文化庁の財源というのは非常に重要だと思っております。文化庁には、実は松江市より出向者を 1 人送っておりますので、そこから情報を取ってきたりお金を取っていきいたいというものはないことです。

今はやはり、ふるさと納税もそうですが、資金調達の形態が随分変わってきているのは間違いなくありまして、クラウドファンディングでいろんなところから集めています。

この間も西田千太郎旧居においては、「瓦プロジェクト」というものを民間でやってらっしゃって松江市は広報支援をしてるというようなこともございますので、そういった民間ベースでの資金調達のあり方というところにもアンテナを張っていきいたいと思っております。

それから田中委員よりおっしゃっていた、建築プランをこどもたちが作る文化祭はとても重要だと思います。

原田委員もちょっとだけ触れていただきました、職業体験イベント「MATSUE WAKU WORK」という取り組みを、去年の 1 月から始めて昨年 11 月に 2 回目をやりました。市内の中学校 2 年生 1,800 人全員を対象にして、くにびきメッセで松江市内の企業、60 社に出でいただいて、「キッザニア」のような職業体験をしております。

こどもたちが、実際に松江にある仕事に触れてもらって、アンケートの結果を見ると、松江にこういう仕事あることを知らなかったということのみならず、自分の夢が見つかったという中学生までいました。

ですので、松江のもちろん文化的な学びも必要ですし、松江にどういった産業があ

	る、或いはその自分がやりたいことが、夢が実現できるということが、後々、定住やUターンに繋がってくる面があると思いますので、今後もふるさと教育の一環ととらえておりますが、さらに力を入れていきたいと思っております。 もう1つ、松原委員に言っていたいただいたジオパークは、先日、4年の更新審査2回目をとることができましてありがとうございました。 これももう本当に、過去から我々が引き継いできたという奇跡の恩恵でしかありません。 先人が残してくれたもの、もっと言えば、自然がつくり出してくれたものですので唯一無二のものを、いかに若い人に伝えていき、先ほどのジオパークの全国大会、あのようところで高校生が発言してくれるような機会にも結びつけられるように組み立てていきたいと思っております。 私も常に考えてるのは、やっぱり5年後10年後ではなくて、50年後、今後、いま生まれたこどもたちが大人になったときに残せるものが何なのか、そしてまた持続可能な松江市になっているのかといった点でございますので、文化というのは非常に大きな、我々の誇る求心力であり、また、教育の機会であり、こどもたちの誇りだと思っておりますので、これからもしっかり暖めていきたいというふうに思っております。
(垣内会長)	非常に力の入った、また、熱のこもった、文化への応援メッセージというふうに拝聴いたしましたありがとうございました。 それでは事務局からの説明を踏まえまして、令和8年度版松江市伝統文化芸術振興計画第2期実施計画、につきまして、委員の先生方のご承認をいただけますでしょうか。 《拍手》 ありがとうございます。 それではご承認いただいたということで、ありがとうございました。 以上ですが、その他何かありますでしょうか。

7. その他	
(園山委員)	市長にお尋ねしますが、フラットスタイルは職人商店街に関係性があるとのことで、この間行ってみましたところ、なかなか面白いなと思いました。 お作りになった意図は何かをお聞きしてみたいなと思いました。 意図がどういうふうに繋がるのか、職人ということで繋がっているのでしょうか。
(上定市長)	まず職人商店街の構想自体は、私が市長に就任する前から暖めていたものでございまして、主にもともと考えておりましたのは、茶の湯です。 松江にお茶の文化があり、そこから派生したものとして、当たり前ですがお茶碗があり、八雲塗のお盆もあり、和紙は民芸紙、そういった繋がりがりながら、そこに職

	人さんがいらっしゃるというのが、残念ながら前に出てきておりませんでした。 普通のお土産物屋にある、八雲塗、土産物屋にあるお茶が並んで、というような捉えられ方をしている非常に残念に思っておりました。 最初に実はちょっとお話をしたのは、山本漆器店さんでございまして、前に審議会委員にもなっていておりました。 山本さんにお聞きしたら、職人の方は3階にいらっしゃって、手仕事でももちろんかなり細かいことやってらっしゃるんですけど、誰にも見えないと。1階では非常に質のいいものを売っていらっしゃって、コーヒーカップが5万円であったりするわけです。そうすると「これは高いな」、というふうに見られてしまうと。そこに職人さんの顔が見えないというので、それをどのようにしたらいいかとうことを話さ中で、道を通りかかった人がガラス越しに職人さんの姿が見えて、そこで、実際にものすごく難しい絵付けをしてらっしゃるから、これは5万円だな、と値頃感が生まれるということです。実際やってみたら、商品に貢献する部分があったり、或いはその文化をさらに知りたいというふうなお客さんたくさんいらっしゃいました。 その中で、3,000円払っていただければ、絵付けも実際できると、そうすると時間もかかって滞留時間が長くなり、お金を落としてもらって宿泊にも繋がる、というような観点で職人商店を始めました。 その中で、最初は昔の伝統工芸だけをしておりましたが、いろいろなリクエストがある中で、例えば分かりやすいのは、それこそ、大庭に「かんべの里」があります。 あそこでいろいろなものづくりしてらっしゃる方がいて、伝統的なものから現代的なものまであり、そういう方が職人商店街を目指したいという意向もおありでした。 ですので結果的に、現代工芸というものを対象にし始めまして、要は、ものづくりということを広く捉えて、実際はそこに漏れるところもあります。ピアノとかいろいろありますけれど、そういった方がたくさん来ることによって、松江の伝統的・現代的なものもまた融合があって、それが松江の文化をさらに光らせていくという趣旨で作らせていただきました。
(園山委員)	わかりました。ありがとうございました。
(垣内会長)	本日予定していた内容、内容はすべて終了いたします。 様々なご意見をいただき、ありがとうございました。事務局へお返しいたします。

8. 閉会	
事務局 (桑原部長)	垣内会長、円滑な議事進行をいただきありがとうございました。また、本日は、委員の皆さまからは大変貴重なご意見を頂戴し、本当にありがとうございました。 本日、皆さま方からいただいたご意見もとに、今後の取り組みに反映できるようにしたいと考えます。 次回の審議会につきましては、今年の9月に予定をさせていただいております。

	詳しい日程につきましては、後日改めまして事務局の方からご連絡させていただきたいと思っております。 その間、メールや電話などで情報共有させていただきまして、またご意見をいただければと思っておりますので、引き続きご協力いただき、ご協力をいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。 それでは以上をもちまして第 11 回の松江市伝統文化芸術振興審議会を終了いたします。 皆さん大変ありがとうございました。
--	--